

そのギモンお答えします

今月も本願寺新報の記事を紹介いたします。

(全文そのまま)

法事の準備編

「お気持ち」と 言われ付度 布施つつみ

付度は昨年、流行語大賞に選ばれた言葉です。世間の注目を集めた背景はさておき、その意味は「他人の気持ちをおしはかること」と辞書にあります。

この川柳は僧侶を招いて仏事をつとめた時の体験談でしょうか。「お布施はどのくらい包むのが常識？月命日と年忌

では違うの？」という経験、誰にもありますね。「一度、お坊さんに聞いてみよう」と僧侶に相談されたのでしよう。しかし、返事は「決まりはありませんから、お気持ちで」。結局、いろんな「付度」をしながら準備されたのかもしれない。

さて、ここで考えていただきたいのは「布施」の意味です。なぜ、金封に「御布施」と書くのでしょうか。

時折、「御経料」や「御礼」という表書きも見受けられますが、「御経料」は僧侶の行う読経に対する「サービス料」、「御礼」では僧侶の労働への「報酬」とも受け取れています。

「布施」とは仏教の大切な「行」のひとつで「施す」ということです。財物を施すことを「財施」、法（み教え）を施すことを「法施」、人に

安らぎを与えおそれなき心を施すことを「無畏施」という「三施」として説かれ、仏事でのお布施は財施にあたります。

阿弥陀さまは、生きとし生ける者すべてを必ずお浄土に生まれさせると誓われました。浄土真宗では、その尊いみ教えに感謝して、できる範囲で精いっぱい施しを阿弥陀さまに対して行うのが、「お布施」なのです。

命日に

頭悩ます

さしだす茶菓子

「ご門徒さんの「法事あるある」ですね。「お坊さんに出すお茶とお菓子、どうしようかしら?」。その悩み、わかります。仏事を大切にしているからこそ、お茶菓子にも気を配って悩まれるのでしよう。さて、仏事を大切にすると

はどういうことでしょうか。蓮如上人は次のようにお諭しです。

神に対しても仏に対しても、馴れてくると手ですべきことを足でするようになる。阿弥陀如来・親鸞聖人・よき師に対しても、馴れ親しむにつれて気安く思うようになるのである。だが、馴れ親しむほど、敬いの心を深くしなければならぬのは当然のことである

『蓮如上人御一代記聞書』
第一三八条(現代語訳)

普段は戸の開け閉めを手でしているのに、ついつい足で「バタン!」としてしまう…。こんなこと誰にでもありますよね。同じように、阿弥陀さまに馴れ親しむのは尊いことですが、気安く思って粗末にしてしまうのはもったいないことです。

仏事を丁寧に営んだり、毎日朝夕のお勤めを大切にすることで阿弥陀さまを仰ぐ気持ちが高まるのです。そのために真剣に悩まれる姿、私はステキだと思います。

法語の世界

《原文》

人の辛勞もせで徳をとる上品は、弥陀をたのみて仏に成るにすぎたることなしと仰せられ候ふと云々。

『蓮如上人御一代記聞書』二百二十六

《現代語訳》

「人が何の苦勞もしないで徳を得る、その最上のごときは、弥陀を信じておまかせするだけで仏になるということである。これ以上のごときはない」と仰せになりました。

《用語の解説》

上品……最上のごこと。

二〇一八(平成三十)年 金光寺報恩講のお知らせ

日時	十二月十五日	午前十時～	日中法要(上下参り)
		(九区・十三区・十四区地区)	
	午後七時～	速夜法要(お参り)	
	十二月十六日	午前十時～	日中法要(中央参り)
		(十区・十一区・十二区地区)	

講師	熊本教区 菊池組 照嚴寺副住職
	浄土真宗本願寺派布教使
	高田 聡 信 師

その他

お参りの際は、門徒式章、念珠と聖典(お経本)をご持参ください。

報恩講期間中の日中法要(午前十時から法要)にお仕事等でお参りできない方は、十二月十五日午後七時からの速夜法要にお参りください。

報恩講は、親鸞聖人のお命日を縁として、浄土真宗の門信徒が手継ぎ寺にそろって参詣し、阿弥陀さまのみ教えに出遇わさせていただく、**浄土真宗では一番重要な法要・法座です。**是非、ご勝縁をお結びください。